

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 20 日現在

機関番号：22604

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370953

研究課題名(和文) 現代都市における死の諸観念の構造と変容を読み解くための研究 上海市を事例に

研究課題名(英文) Understanding the Structure and Transformation of Concepts Related to Death in Modern City: In the case of Shanghai

研究代表者

何 彬(HE, BIN)

首都大学東京・人文科学研究科・教授

研究者番号：50305405

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,900,000円

研究成果の概要(和文)：1950年代以後の中国は、葬儀場と火葬場は福祉施設と位置づけられ、設備簡単で料金が安かった。1990年代に、上海の葬儀関係者たちは、充実したサービスと高価な納骨場所を提供するに対して相応な料金をもらおうと、葬送業を一般企業として立ち上がった。次第に全国的に葬送産業を形成した。本研究は、国営の福祉型から産業型への転換をいち早く達成した上海市葬送産業の形成と構造を解明することを研究目的にしている。3年の間、企業と市民に対する聞き取りとアンケート調査の結果により、上海市の葬儀場と火葬所、霊園の分布や営業内容の実態を把握したうえ、大都市上海の人々は時代の変化に適応し葬送への需要などを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：Since 1950s, mortuary houses and crematories had provided service as a kind of welfare facilities in China, and the facility was simply equipped and its service fee was cheap. In 1990s, people who worked in this funeral field in Shanghai began to provide more substantial service and expensive burial place. They increased the service fee, and the funeral industry was developed as normal enterprise. This study aims to elucidate the formation and the structure of the funeral industry in Shanghai and to analyze how it changed from the pervious national-owned welfare facility into a commercial enterprise. Over 3 year, through conducting interviews and distributing questionnaires, data from enterprisers and citizens were collected. The researcher found out the distribution of mortuary houses, crematories and burial grounds in Shanghai, as well as their business details. Living in the big city, Shanghai, people required different kinds of funeral service in different periods of time.

研究分野：民俗学

キーワード：中国 上海 葬送民俗 都市民俗 葬儀 墓地 上場企業 都市化

1. 研究開始当初の背景

中国では、1960年代から政府の提唱により葬法は土葬から火葬へと変わった。伝統的な葬儀も「迷信」とされたため、一般的に数日か一週間で一連の儀式で構成している葬儀は、提唱される二時間程度の「追悼式」にとって代われた。その後の納骨も納骨式等も行われなかった。このような「追悼会」は80年代まで続いた。1990年代になると葬送産業の変革が上海市から始まった。具体的には、葬送文化研究所の設立、葬送国際セミナーの開催と葬送設備国際博覧会の開催のほか、「人情化サービス」(人情的なサービス)と呼ばれる丁寧な葬儀項目の提供などが挙げられる。死を「文化的に」認識し、伝統的な葬儀は迷信ではないことを、研究成果を通して公表し、死者への哀悼の意を表すことや遺族への心遣いなど、それまでになく詳細な葬儀の項目を設定し、サービスを提供するようになった。その結果、利用者がサービスに対して相応な料金を支払うようになった。これは中国における葬儀関連の福祉型施設から営利型企業へと変身をする表象の一部であり、その変身のプロセス及び葬儀産業の構造と現状が本研究の対象である。

葬儀産業の変革は、上海がその始まりの地であった。十数年前、本研究の担当者は上海で開かれた葬送文化国際セミナーに参加したほか、新型霊園の調査と「上海喪葬文化研究所」を訪ね、上海で起こった都市の葬送産業の形成と葬儀・霊園関連の施設やサービスの内容の激変ぶりに驚きを感じた。中国において、伝統文化や民俗の伝承などの研究は、農村地域や辺境の地を注目する傾向があるが、都市における民俗の研究は少なく、葬送民俗に関する研究はさらに少ない。博士学位獲得後の20数年間、本研究の担当者自身

も主に農村や山村で葬送民俗を調査、研究を続けてきた。上海市の葬儀や墓地運営に伝統的な民俗を営業項目に取り入れ成功した事例に感心しつつも、一方で都市の葬送民俗を調査・研究する民俗学者と人類学者が少ないこと、都市の葬送民俗事例を通して祖先、霊魂、他界に関する分析資料も少ないことに気づいたことが、本課題の視点からの調査と研究を始めた所以であった。

2. 研究の目的

中国では、現代化に伴い1990年代から従来の政府定式の葬儀に代わり「文化的サービス」と呼ばれる葬送産業の変革が始まった。その傾向は都市において顕著であるが、都市における葬送民俗の研究はかなり少ない。本研究では、現代中国における死の諸観念と葬送の変容を読み解くために、葬送産業変革の起点である上海市を研究対象として、以下の三点に重点をおいて研究を展開した：

- (1) 国有福祉型から独立産業型へ転換する葬送産業の構造及び現代葬儀の仕組みの把握
- (2) 政府規制による都市における伝統葬送の変容の把握と市民の諸観念
- (3) 上海地域における葬送研究に関する文献調査

3. 研究の方法

本研究の上述する三つの目的を達成するためには、葬送企業と上海市住民への聞き取りや儀式の観察などフィールドワークの方法と上海市図書館、国家図書館、上海市にある大学の図書館などにおける文献リサーチの方法が主な研究方法である。

4. 研究成果

本研究の対象は、死をめぐる産業形成と死に関する中国の現代民俗である。しかし、外国人が長年滞在の調査が禁止されていたため、中国の農村地域も都市も調査が長い間できず、いまま外国人によ

る調査は希少である。都市に生活する人々の死に対する観念の構造、行政の規制による伝統の変容と民衆の行政への適応、観念と行為の表象をいかに読み解くか、という本課題の研究は、中国における現代大都市の葬送研究の空白を埋めることとなり、中国の都市民俗研究及び上海社会研究においての新しい試みであった。

上海の葬送産業の福祉企業からの転換成功の原因、産業の運営体制と伝統民俗をいかに現代企業の運営に取り入れているか、都市生活に転換される人々の死の観念の構造、行政の規制による伝統の変容と民衆の行政への適応、観念と行為の表象をいかに読み解くか、という本課題の研究は、中国における現代大都市の葬送研究の空白を埋めることとなり、中国の都市民俗研究及び上海社会研究に貢献できるものである。

本研究の第一目的は、国有の福祉型から産業型への転換をいち早く達成した上海市葬送産業の形成と構造を解明することであったが、3年間の調査を通して、上海市の葬儀場、三つの火葬所と複数の霊園についての基本的な営業内容、改革の流れなどを把握し、福祉部門から「産業」に変身した上海葬送業の基本構造を明らかにした。産業化の第一歩として、かつて上海市民政局に属した葬儀場と火葬場は、現在、独立した葬儀場経営、遺体処理と遺骨保管の一連のサービスを担当する総合サービス企業を形成している。調査対象は傘下に数十の会社を有する上海随一の影響力をもつ葬送関連の大企業となっている。個人経営の霊園や納骨堂などもその傘下にあることを売りにすることが、上海での知名度の高さを物語っている。

葬送産業の形成プロセスのほか、傘下の数々の企業が、上海地域の人々の昔からの

死の諸慣習を営業にいかに取り込んでいるのか、どのように市民の需要に応じたサービスを提供しているのか、規制される面などとの折り合いをどうつけるのかについて聞き取り調査を行った。市民の需要に応じた葬儀のプランは価格の面と信仰などの面を配慮して多種多様に設定されている。例えば千元（約1万7000円）で済ませられる経済型葬儀と十数万元（約200万円）もかかる高額消費型葬儀など、ユーザーの満足度を追及するようになっていることは、調査を通してその様子をうかがえた。

本研究の調査は、かつて農村地域で一般的に行われた「守夜」（お通夜）の儀式も一部の葬儀場が提供するようになったり、民間葬儀の音楽の導入や葬儀場に伝統な慣習を含む要素を多く取り入れたりしたことに注目した。民俗の伝承を営業に取り込むことに関心を払った本研究は、今後の都市における伝統民俗と企業運営をいかにして融合できるかの参考データを提示でき、海外資本の中国大都市進出の参考データともなる。研究の世界にととまらず、企業や行政施策の参考ともなるような社会に還元できる課題への着眼および調査と研究の実施は、本研究の大きな特色の一つであった。

さらに本研究を実施するここ数年の間に業界再編の動きがみられた。かつて、政府の管轄下におかれた福祉型の葬儀施設は、現在一般の企業として成り立ち、一つの産業を形成したプロセスや、これら企業の現状を調査していくなかで、産業化した中国の葬儀業は、ここ数十年のうちに、政府管轄の下にある「行政」の一部門から離脱した「企業」として、都市の葬儀を担い、都市にとって不可欠な存在となった。さらに進んで発展したことも知った。なんと、葬儀社、霊園経営の企業は、株式会社として上場した企業までに発展したのである。これは、中

国の都市における葬送産業の新たな動向として確認できたし、今後の研究に新たな課題として注目したいと思っている。

第二の目的を達成するには、都市民俗のフィールドワークとして三年間で累積約300人程度の上海市在住の方にアンケートと聞き取り調査を行い、市民の葬儀に対する思いと都市における葬送の需要に関する最新の実態を把握した。年齢や収入により、葬儀及び死後の墓の利用には、かなりのギャップが出るのが、調査で分かった。葬儀、葬法等の慣習は現代化が進展や行政上の規定によって制限されながらも、市民がいかに柔軟に対応し今日に維持されているのか、表象を通して深層の死に関する諸観念を読み解く。漢族の祖先・他界・靈魂の諸観念の構造分析は現代都市において通用しうるか、上海市における葬送研究の研究を通して検証し、都市化の環境における伝統変化の法則を明らかにする。調査の聞き取りとアンケートの内容整理及び分析は今後順次行い、完成次第公表する予定である。

大都市での聞き取り調査は安易なものではなかった。農村地域と違う生活形態により、都市の団地で生活する家庭は、親戚同士がともに同じ村に住むような農村ケースと違い、横のつながりが弱く、警戒心が強い。また、プライバシー保護を理由に調査を断るケースも度々出会った。村に住み着き、村民と知り合いになれて村行事の参与と生活の観察がかなり自由にできるが、都市の団地では、それはできず、各家庭を訪問し聞き取り調査することは不可能に近いものであった。そこで、コミュニティーの老人クラブなどの活動を通して住民に理解してもらい、聞き取りが徐々に実現できた。そのデータの分析と公表は今後行う予定である。本研究の聞き取り調査の経験と収穫は、都市民俗学の視角からの調査成果の提供にも寄与するものであり、上海以外の大

都市の今後の調査と研究にも参照できるケースとデータとなる。

本研究の第三の目的は、上海と周辺地域における葬送民俗の文献をリサーチすることである。中国国内では、全体的に葬送民俗研究において、文献が中心であり、古代を重視することと農村を重視する傾向がある。1960年代の政治運動終息後、すぐに刊行された死に関する書物は、いずれも考古学と民族誌資料をまとめて記述する書物であった。1990年代以後、人類学と民俗学の視点からのフィールドワークと研究が展開され、葬送民俗に関する調査報告書も多く発表され、フィールドワークによる葬儀、死後祭祀に関する論著が数多く現われた。中国では経済が発展して以降、死をめぐる慣習の記述や調査報告及び研究論著が徐々に現れ、刊行された。しかし、それらの多くも、国内の学会誌、業界誌に散在し、本の刊行も地方出版のものが多いため、国家図書館さえも網羅しきれない状況である。また、上海とその周辺地域と限定される葬儀の記述などは卒論、修論の形で大学の図書館あるいは地域発行の雑誌に載せられているが、それに関する整理がなく完全に散在した状態である。そこで、本研究では上海市図書館及び上海の数か所の大学図書館に行き、所蔵資料を閲覧し、著書・学会誌と業界誌の論文・論文集に分類してリサーチしていた。中国で最初の「殯葬博物館」及び上海市図書館の上海特別資料コーナーでのリサーチにより、三年間で上海と周辺地域における葬送民俗に関連する記述や論文等を貴重な資料を発掘、発見した。検索した文献は目次だけがあり、内容閲覧できないなど収集には苦労したが、このことは葬送関係のことを記述したり、分析したりする葬送関係の研究の希少さを物語っている。これらのデータを整理と分類した上、文献リストを作成する予定である。これに

より上海地域の葬送研究および企業等の進出などに最新情報が提供できる。

激変する大都市上海の日常生活の一部として、葬送の慣習はどのように時代の変化に適應しているのか、上海の民俗の多元的な構造をどう解読するか、現代の葬送や遺骨収納の多様な様相についてどう理解するかをテーマとして、最終年度は上海華東師範大学との共催の形で、シンポジウム『大都市上海の伝統と変遷 民俗地図とデータバンク作成への助言』を開き、華東師範大学、復旦大学、上海大学の研究者と上海都市文化研究者たちは、上海住民の葬儀・葬法の意識の変容と社会変化をどう認識するか、都市における葬送伝統の変容、社会体制への適應及びこれに関する貴重資料の保存や記録方法について意見交流ができた。今後における研究情報の共有と協力についても話し合い、都市研究をさらに深まる基礎を築いた。

本科研は、激変する現代中国の都市民俗に関する研究において重要な実践とあり、新しい試みであった。現代都市における伝統の変遷に関する本研究は、予想以上の収穫があった。今後も中国の都市民俗研究を重要な課題と考えられる。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 件)

〔学会発表〕(計 1 件)

何彬, 「上海葬送習俗変遷の構造を解読する」, シンポジウム『大都市上海の伝統と変遷を解読する 民俗地図とデータバンク作成への助言』, 中国, 上海, 上海華東師範大学, 2017.3.4

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

何彬 (HE, BIN)

首都大学東京, 人文科学研究科, 教授

研究者番号: 50305405

(2) 研究分担者

()

研究者番号:

(3) 連携研究者

()

研究者番号:

(4) 研究協力者

()